

関西医科大学 社会貢献 & SDGs

2025

(2023.4~2024.3)

Kansai Medical University Social Contribution & SDGs



関西医科大学の取り組み一覧

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



01 国際交流・学術連携関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P5 トリノ工科大学(イタリア)との学術交流協定締結			●	●					●	●							●
P5 コンケン大学(タイ)教員・大学院生来訪			●	●						●							●
P5 国際大学院入学受け入れ	●		●	●						●						●	●

02 地域連携・協定関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P6 枚方市との連携協定締結			●	●					●		●						●
P6 常翔啓光学園中学校・高等学校との協定締結			●	●													●
P6 常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業の実施			●	●													●

03 高齢者・認知症支援

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P7 認知症サポーター養成講座開催			●	●				●		●	●					●	●
P7 「高齢者こころとからだの健康チェック2023」開催			●	●				●		●	●					●	●
P7 ポストポリオ検診会実施			●	●							●					●	●
P7 「自分でできるフレイル予防」開催			●	●				●		●	●					●	●

04 救急医療・医療体制強化

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P8 健康沿線の体制			●								●					●	●
P8 ドクターカー(ラビッドレスポンスタイプ)導入			●						●		●						●
P8 総合医療センタードクターカー運用開始			●						●		●	●					●
P8 看護師が人命救助、寝屋川消防署から感謝状受領			●														

05 教育・人材育成(大学院・専門教育)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P9 奨学金(学部・大学院)	●		●	●						●						●	
P9 令和5年度第1・2・3・4回大学院企画セミナー			●	●												●	
P9 「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」始動			●	●					●		●					●	●

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
P.10 看護学部臨床看護学教員制度			●	●				●									
P.10 第7期関医・看護師リカレントスクール開講			●	●				●								●	●
P.10 電子教科書導入			●	●					●	●	●	●					●

06 子ども・次世代育成

P.11 夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」開催			●	●							●						●
P.11 第17回滝井セミナー「～子どもを理解するために～」開催			●	●						●						●	●
P.11 看護学部「子ども大学探検隊」実施			●	●				●			●						●
P.11 がん教育講演会開催			●	●							●					●	●

07 医療体験・キャリア教育

P.12 附属病院1日看護師体験開催			●	●				●									●
--------------------	--	--	---	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	---

08 地域保健活動

P.12 看護学部2年次生による保健師実習			●	●				●			●					●	●
-----------------------	--	--	---	---	--	--	--	---	--	--	---	--	--	--	--	---	---

09 市民向け健康啓発・公開講座

P.13 附属病院市民公開講座開催			●	●							●					●	●
P.13 アレルギーセンター府民公開講座開催			●	●						●	●					●	●
P.13 ひらかた市民大学開催			●	●							●					●	●
P.14 総合医療センター糖尿病デーフェスタ2023開催			●	●				●			●					●	●
P.14 総合医療センター第23・24回市民健康講座開催			●	●							●					●	●
P.14 香里病院市民公開講座開催			●	●							●					●	●

10 がん医療・検診

P.15 附属病院・総合医療センター 北河内がん診療ネットワーク協議会合同イベント開催			●	●				●			●					●	●
P.15 附属病院最新がん医療セミナー開催			●	●							●					●	●
P.15 日曜乳がん検診（ピンクリボン）開催			●	●	●						●						●

11 医療の質・安全向上

P.16 第20回医療安全大会開催			●	●						●	●					●	●
P.16 医療ニーズ発表会開催			●					●	●			●				●	●
P.16 第7回学術祭開催			●	●													●

12 女性医師支援・ジェンダー平等

P.17 医師キャリア支援のための交流会開催			●	●	●			●		●						●	●
P.17 第3回女性医師奨励賞（アプリコット賞）・ 第1回女性医師活躍推進賞（アプリコットサポート賞）表彰			●	●	●			●									

13 学術貢献

P.18 石崎優子診療教授が日本学会会議第26期連携会員に任命			●	●	●												●
---------------------------------	--	--	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

14 環境配慮

P.18 地下水給水設備設置			●			●					●	●					
----------------	--	--	---	--	--	---	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--

私立医科大学ナンバーワンの 社会貢献活動を目指して

副学長（社会貢献担当）

齋藤 貴徳



近年、本学にとって、社会貢献、地域貢献あるいは社会連携活動（以下、「社会貢献等活動」と言います。）がますます重要性を増しています。

本学はこれまでも、建学の精神である「慈仁心鏡」を礎に、各部署、各部門がそれぞれ教育・研究・診療あるいは市民向けの公開講座などを通じて、地域貢献、自治体との連携、初中等教育機関との連携、国際貢献など幅広く社会貢献等活動を行ってまいりました。

他方で本学の社会貢献等活動に対しては、令和3年の、法律で7年毎の受審が義務付けられている国の認証機関による「機関別認証評価」において、「それぞれの（社会貢献等の）活動は活発であるが、これまでの大学の歴史や立地条件に基づいて大学が全体として戦略を立てて取り組んでいるとはいえず、更に検討が必要である。」と大学全体の戦略的な取り組みを求める努力義務が示されました。

日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価においても、近年、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準との整合性を図る中で、医学教育における社会貢献や地域貢献活動の実効性、継続性が重視されてきています。また平成16（2004）年から始まったTimes Higher Educationに、令和元（2019）年に新設された「インパクトランキング」でも、大学の社会的責任とSDGsへの貢献度が評価軸として明確に設定され、大学がこうした活動に積極的に取り組むことを求めています。

このような課題に対応するため、本学は令和6年12月、副学長の担当業務に、それまでの「教育」「研究」「産学連携・知的財産」「臨床」および「入試・国試」と並び「社会貢献」を追加し、私がおの担当副学長を拝命しました。本年7月には「社会連携・社会貢献推進規程」を制定し、先月には、私が委員長となり、3学部、各附属病院および本学の社会貢献・地域貢献活動に密接に関連する法人各部門の責任者の参画を得て、本学の社会貢献等活動推進の核となる「社会連携・社会貢献推進委員会」を立ち上げたところです。

今後この委員会が中心となって、まずは各部門の社会貢献等活動の「棚卸し」を行うとともに、「基本方針」を策定します。3年後である令和10（2028）年の創立100周年に向け、本学が何を目指してどんな社会貢献等活動を進めていくかを明確に示し、教職員の皆さんが理解し共感し、共に行動するモチベーションとなるような内容にしたいと考えています。中期計画、年度計画をしっかりと立て、各部署、各部門の取組みにしっかりと横串を刺し有機的な関連性を持たせたいと思います。そして、それぞれの取組みをしっかりと把握・評価するなどPDCAサイクルをしっかりと回すことで、私立医科大学ナンバーワンを目指して、本学の社会貢献等活動の質の向上を図っていきます。

今後とも教職員の皆さんの本学の社会貢献等活動に対する積極的な関わりをお願い申し上げます。



トリノ工科大学(イタリア)との学術交流協定締結

学校法人関西医科大学は、4月1日(土)、トリノ工科大学(イタリア)との間で学術交流協定を締結しました。また、トリノ工科大学は日本国内の大学との研究や企業との交流などに活用する拠点「トリノ工科大学ジャパン ハブ京都」を開設。7月11日(火)には、同拠点(京都市左京区)およびクエスチョンビルディング(京都市中京区)でオープニングセレモニーが行われ、クエスチョンビルディングでのセレモニー中に木梨達雄学長、友田幸一国際化推進センター長、トリノ工科大学Guido Saracco学長、David Chiaramonti副学長らによる本学とトリノ工科大学との協定調印式が実施されました。国内でも類を見ない新しいプロジェクトで、双方の大学が有機的な関係を築き、新しい科学技術の発展に貢献できることが期待されます。

今後は本協定に基づき、両校でグローバルな領域での医工連携により研究シーズの育成・推進を行い、またユニークな研究プログラムの構築、大学院博士課程での医学分野と工学分野の博士号を同時に取得できるダブルディグリープログラム設立に向けた協議を進めます。



コンケン大学(タイ)教員・大学院生来訪

9月4日(月)13時30分にコンケン大学(タイ)公衆衛生学部の教員及び大学院生らが、本学医学部衛生・公衆衛生学講座との将来的な共同研究などの模索や、互いの研究活動に関する情報交換のために来訪しました。



国際大学院入学受け入れ

10月4日(水)16時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において「令和5年度国際大学院入学式」が挙行されました。この国際大学院は、アジア・アフリカ・東欧各国などの協定大学から推薦された優秀な留学生を受け入れ、日本と関係国間の医学・医療に貢献できるリーダーを養成することを目的としています。



02 地域連携・協定関係



枚方市との連携協定締結

関西医科大学は枚方市とこれまでの包括協定に加え、健康、医療、福祉分野への連携協力に関する協定を締結しました。この協定に基づき、今後、健康医療福祉に関する事業の連携、共同プロジェクトの実施や教職員の交流、健康医療福祉に対する啓発活動・情報発信の促進等に協力して取り組み、枚方市民の健康増進や地域の産業振興を図るとともに、地域の活性化に貢献します。



常翔啓光学園中学校・高等学校との協定締結



10月6日(金)13時から枚方キャンパス医学部棟13階第一応接室において、本学看護学部、リハビリテーション学部と常翔啓光学園中学校・高等学校との教育連携事業に関する協定の締結式が行われました。同じ枚方市内にある大学と中学校・高等学校が協定を締結することで連携事業がより一層活発になり、地域の中学生・高校生たちに、早期から医療分野への興味・関心を持ってもらうきっかけに繋がること期待されます。



常翔啓光学園中学校・高等学校との高大連携事業の実施



7月22日(土)10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において体験学習が行われ、同中学校の生徒が参加しました。理学療法学科では筋機能測定と動作解析、作業療法学科では革細工と手の装具作製の体験が実施されたほか、参加者たちは大学の講義を聴講しました。

8月5日(土)9時30分からは、枚方キャンパス看護学部棟で1日看護体験が行われました。同高等学校の生徒が来学し、シミュレータを用いた看護ケア、赤ちゃんの沐浴、心肺蘇生法を体験。また、高齢者の方のものの見え方、聞こえ方や体の動かし方の疑似体験も行われました。



03 高齢者・認知症支援



認知症サポーター養成講座開催



6月6日(火)12時50分から、枚方キャンパス医学部棟2階第4講義室において、医学部4学年の講義の一環で、関西記念病院奥川学院長による「認知症サポーター養成講座」が開催されました。認知症サポーターとは認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援し、だれもが暮らしやすい地域をつくっていくボランティア活動を行う人々のことで、「認知症サポーター養成講座」を受講することで認定されます。令和7年には5.4人に1人程度が認知症になると予測される中、本学では数年前から本講座開催を開始しており、全医学部生がこの講座を履修しています。



「高齢者こころとからだの健康チェック2023」開催



5月13日(土)・14日(日)の2日間、リハビリテーション学部では、医学部衛生・公衆衛生学講座甲田勝康研究教授および附属病院健康科学センター木村穰センター長の協力のもと、地域住民を対象とした『高齢者こころとからだの健康チェック2023』を実施しました。昨年に続き2回目となる今回、2日間で計168名の方が参加しました。



ポストポリオ検診会実施



6月3日(土)附属病院において、リハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士の協力のもと、リハビリテーション学部教員企画によるポストポリオ検診会を開催しました。リハビリテーション学部生も参加し、対象者から体験談を聞き、授業で学んだ計測や装具装着を実践しました。対象者には最後に医師から身体機能の計測結果がフィードバックされ、日常生活におけるアドバイスや装具相談も行われました。今後も、教員と病院スタッフが連携するイベントを通して、学生がリハビリテーションの現場を経験する機会を増やしていきます。



「自分でできるフレイル予防」開催



9月15日(金)、22日(金)、29日(金)いずれも10時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階大講義室1において、シリーズ講義「自分でできるフレイル予防～学び、知ることが健康を守る～」が開催されました。これは地域在住の高齢者やその家族を対象としており、「フレイル」やその予防について学ぶことで、自分自身でフレイル予防ができるようになることを目指した講習会で、近隣の地域包括支援センターと共催で実施しています。各回の講義と評価にはボランティアの学生スタッフも参加。笑顔を見せながら参加者に測定方法を説明したり、測定結果の解説をする様子が見られました。



04 救急医療・医療体制強化



健康沿線の体制



関西医科大学は、医学部、看護学部、リハビリテーション学部で構成される大学、隣接する附属病院をはじめ、京阪沿線に4病院と2施設を構えています。医療機関の総病床数は1,567床で、地域包括医療ケア・ネットワークを早くから取り入れ、実践するなどこれからの「人生100年時代」に向けて、健康長寿すなわち、健康寿命を平均寿命にいくかに近づけるかに全力を注いでいます。関西医科大学はこのネットワークを“健康沿線®”と称し、大阪北東部、北河内地域の住民の健康と医療・福祉に貢献しています。

ドクターカー（ラピッドレスポンスタイプ）導入



総合医療センターは守口市門真市消防組合との災害における協力体制にかかる覚書締結のもと、ドクターカーの中でも迅速に救命医療を開始できるラピッドレスポンスカーを導入し、6月末から運用を開始しました。これは、要請に基づき医療者が災害現場に直行し現地で緊急性の高い疾患への対処や、COVID-19対応時に実施した宿泊型療養ホテルへの往診などに使用できる、機動性に優れた多目的の乗用車タイプで、同往診による補助金収入により導入が可能となりました。また、電力供給が可能なプラグインハイブリッド車であるため、大規模災害時には電力供給が絶たれた被災現場における、被災者に対する電力供給も可能です。この導入により、地域での救命率向上に寄与する働きが期待されます。



総合医療センタードクターカー運用開始



2月19日(月)13時から総合医療センター北館地下駐車場においてドクターカーの納車式が開催されました。今回納車されたドクターカーは運転時の揺れが最大限抑制され、広い患者室を備えるなど従来の救急車から機能が大きくアップデートされています。また、電動ストレッチャーが搭載されたことでより安心・安全な搬送が可能となるなど患者さんや同乗するご家族、医療従事者に配慮された設計になっています。さらにエンジン駆動による発電システムを強化しているため、大規模災害発生時にはDMAT(災害派遣医療チーム:Disaster Medical Assistance Team)出動車両としての活躍が期待されます。



看護師が人命救助、寝屋川消防署から感謝状受領



5月19日(金)、香里病院看護部清水美由紀看護師が、路上に心肺停止状態で倒れていた男性の救助活動を行いました。出勤途中の清水看護師は、倒れている男性を発見したドライバーの声に反応して自身も歩道に倒れている男性のもとへ駆け付けました。周囲の方へ声をかけて、救急車を呼ぶ方、胸骨圧迫をする方、AEDを持ってくる方と、役割分担を依頼し、救急隊到着後は状況説明を行いました。救助された男性は治療を受けた後、日常生活に問題なく復帰し、清水看護師は8月17日(木)に寝屋川消防署から感謝状を贈呈されました。



05 教育・人材育成(大学院・専門教育)



奨学金(学部・大学院)



医療従事者、研究者を目指す夢を、費用の面からも支援するため、学部、大学院において各種奨学金の制度を設けています。

令和5年度第1・2・3・4回大学院企画セミナー



本学大学院医学研究科では、各分野の第一人者を招き、本学大学院生・教職員・学部学生および学内外の関係者を対象に行う特別講義「大学院企画セミナー」を実施しています。令和5年度は以下の4回を開催しました。

第一回 8月25日(金)

講師：京都大学iPS細胞研究所・未来生命科学開拓部門濱崎洋子副所長・教授

テーマ：「T細胞の老化と再生」をテーマに講演しました。大学院生時代の様子を交えながら、リンパ球の一種であるT細胞の産生臓器「胸腺」の加齢に伴う変化、新型コロナウイルスワクチン接種を用いた高齢者のワクチン免疫応答に関する研究などについて解説しました。

第二回 8月30日(水)

講師：慶應義塾大学医学部医化学教室佐藤俊朗教授

テーマ：「オルガノイド技術によって明らかになった疾患生物学」

第三回 10月19日(木)

講師：札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所神経再生医療学部門再生治療推進講座本望修教授

テーマ：「脊髄損傷患者に対する新しい幹細胞製剤 ―再生医療等製品―
Cell therapy for spinal cord injury patients」

第四回 1月19日(金)

講師：北海道大学遺伝子病制御研究所佐邊壽孝客員教授

テーマ：「より自然で効果的な癌治療を目指して」



「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」始動



10月3日(火)17時から、ブリーゼプラザ(大阪市北区)において、「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」第1回プロジェクト統括会議及び調印式が開催されました。同プランは、近畿大学を事業推進代表とした阪神地区の国公立5大学9学部が相互に連携して、がん専門医療人(以下「がんプロ」)を養成することを目的としたもので、第1～3期で育成された人材が事業の中心を担い、継続的ながんプロ人材の育成を実施します。

この日は、本学から医学部・大学院医学研究科金子一成学部長・研究科長(小児科学講座教授)、放射線科学講座谷川昇教授らが出席。プロジェクト統括会議では、プランの概要や今後の活動について議論しました。





看護学部臨床看護学教員制度



令和5年10月から看護学部と附属病院看護部との協働により、看護学部の臨床看護学教員制度が新たに開始しました。この制度は、看護学部生に看護師が実践の場で得た根拠に基づく質の高い技術と、最新の医療状況に応じた実践力を身につける教育を実施する目的で制定されました。

制度について

指導実施項目として以下が予定されています。

- 臨地実習指導
- 演習科目指導
- OSCEへの参加

本制度により以下のようなメリットが期待されています。

□看護学部

- ・学部の教育内容や学生のレディネスを理解した指導者による臨地実習が可能となる。
- ・大学院進学希望者の増加が見込まれる。

□附属病院看護部

- ・大学院修了者の意欲向上に繋がる。

第7期関医・看護師リカレントスクール開講



令和5年10月11日(水)10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第7期「関医・看護師リカレントスクール入校式」が挙行され、受講する8名が入校式に臨みました。リカレントスクールでは、離職中の看護師の復職への不安を軽減し、仲間と共に職場復帰を目指すプログラムを用意しています。スクールでは、およそ2カ月間、リモートでの講義や、シミュレーションセンターで最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが行われました。



電子教科書導入



本学医学部では、令和6年度から電子教科書を導入し、授業における基本書として活用することを決定しました。これは、「新医学教育改革2023」として教育に携わる教員を対象に開催されたFD(Faculty Development)研修において医学教育の問題点として挙げた「学生が成書を持たない、読まない」という課題に対して提案、導入が決定されたものです。

電子教科書へは書き込みやマーカーを付すことも可能で、基礎から臨床まで幅広い領域の電子教科書を閲覧できるほか、オリジナルの参考書や確認問題などの自学自習コンテンツを、PCやスマートフォンなど様々な環境で自由に利用ができます。一部書籍は臨床研修時まで利用が可能であり、長く利用することができます。

06 子ども・次世代育成



夏休み子ども企画「関西医科大学で遊びを体験」

8月19日(土)、27日(日)(午前の部10時から、午後の部13時30分から)に牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において地域の子ども向け企画「関西医科大学で遊びを体験」が開催されました。

このイベントは、地域の中で全ての子どもが健やかに成長していける社会を目指し、地域に貢献できる取り組みとして作業療法学科の教員らが企画したものです。



第17回滝井セミナー 「～子どもを理解するために～」開催

8月3日(木)、4日(金)両日ともに13時30分から総合医療センター南館2階臨床講堂において、また併せて動画配信形式で滝井セミナーが開催されました。これは、教育関係者を対象にコロナ禍における起立性調節障害など小児心身症を患う子どもたちへの対応について理解を深めることを目的に、大阪府立刀根山支援学校と協力して行っているもので、今回が17回目の開催となります。



看護学部「子ども大学探検隊」実施

令和5年10月28日(土)10時から、枚方キャンパス看護学部棟において、「子ども大学探検隊」が開催されました。これは、枚方市内在住および市内の学校に通う小学生を対象とした事業で、今年度は児童22名が参加しました。



がん教育講演会開催

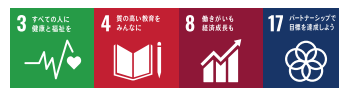
1月22日(月)11時から大阪府立枚方支援学校(枚方市)、2月13日(火)14時25分から枚方市立楠葉中学校(枚方市)、2月19日(月)13時10分から大阪府立寝屋川支援学校(寝屋川市)において、附属病院看護部松森恵理師長(がん性疼痛看護認定看護師)による各学校の生徒を対象にしたがんについての出張授業が行われました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。



07 医療体験・キャリア教育



附属病院1日看護師体験開催



7月28日(金)9時から附属病院各病棟において、高校生を対象に「1日看護師体験」が開催されました。これは看護に対する理解を深めるとともに、看護の明るいイメージづくりを図り、将来の進路選択の参考としてもらうために行っている大阪府の事業で、この日は大阪府下2つの高校から31名が参加しました。



08 地域保健活動



看護学部2年次生による保健師実習



10月3日(火)から11月10日(金)にかけて、看護学部2年次の学生が「地域生活援助論実習I」の実習を行いました。この実習では、学生たちが秋田県、栃木県、岡山県、高知県などの日本各地に滞在し、さまざまな地域特性、保健所・市町村保健センターの事業内容や保健師活動を学びます。

10月29日(日)から11月2日(木)までの実習では、学生たちが岡山県西栗倉村において村唯一の診療所所属の看護師や保健師から保健福祉医療活動の実態について学んだほか、高齢者の方の交流の場「であい茶屋」に参加。

また、同青木秀樹村長が学生たちのもとを訪れ、「西栗倉村のキャッチコピーである『生きるを楽しむ』を目指し、村民の健康を維持する仕組みづくりには、高齢者向

けの対策はもちろん、これからは若い世代の健康維持のための対策も必要である」との村のビジョンや、今後の西栗倉村の取り組みへの期待などが話されました。



09 市民向け健康啓発・公開講座



本学附属医療機関では、関西医科大学および附属病院の持つ医学知識を広く一般市民の方に還元することを目的とした公開講座や健康に関する啓発イベントを開講しています。

附属病院市民公開講座開催（2回）



9月16日（土） テーマ：「人生会議ってな〜に？」

松田公志病院長の挨拶後、看護部中村桐子副部長の司会のもと、講演一部では緩和ケアセンター佐久間博子がん看護専門看護師の「私らしい暮らしを実現するために」にて「人生会議」の概要が、続く講演二部では各専門職の立場から具体的な行動に焦点を当て、牧田崇史医療ソーシャルワーカーの「病院と地域をつなぐ窓口」、関医訪問看護ステーション・枚方永田多恵子看護管理師長の「訪問看護ってな〜に？」、同武田真輝理学療法士の「訪問リハってな〜に？」の3題が講演されました。



講演後の質疑応答コーナーでは、参加者から多くの質問が寄せられるなど、講演テーマに対して関心の高さが感じられました。

1月20日（土） テーマ：「おなかの病気 いろは 〜身近な疾患から最新治療まで〜」 「劇的に進化した肺がん薬物療法」

松田公志病院長の挨拶後、市民公開講座委員会浅井昭雄委員長の司会のもと、消化器肝臓内科長沼誠部長による「おなかの病気 いろは 〜身近な疾患から最新治療まで〜」、呼吸器腫瘍内科倉田宝保部長による「劇的に進化した肺がん薬物療法」の2題が講演されました。どちらの疾患へも関心の高さがうかがえ、各演題後の質疑応答時には、健康管理や最新の治療・研究などに関する日頃の疑問が参加者から多数寄せられました。

アレルギーセンター府民公開講座開催



3月16日（土）14時30分から、附属病院13階講堂において「関西医科大学附属病院アレルギーセンター府民公開講座」が開催され、市民ら40名が参加しました。この日は「これだけは知っておきたい、アレルギーに関する知識」をテーマに講演が行われました。



アレルギーセンター小林良樹センター長の挨拶の後、香里病院耳鼻咽喉科濱田聡子部長が「知っておきたい花粉症の最新治療」、続いて附属病院皮膚科岸本泉助教が「ナゼおきる？どうなおす？かぶれ」と題してそれぞれ講演しました。また、外部講師による「アレルギー疾患に有効な家庭環境改善方法」も開講され、講演終了後は掃除機やハウスダストに関する展示コーナー、アレルギーセンタースタッフによる個別相談・質問コーナーが設けられました。

ひらかた市民大学開催



このイベントは、本学も参画する学園都市ひらかた推進協議会および枚方産学公連携プラットフォームの事業として毎年開催されているものです。枚方市内の大学の専門的な知識・情報を学習できる講座を市民の皆さんに提供しています。

今年のテーマは「健康寿命延伸を目指して」。リハビリテーション学部作業療学科種村留美学科長の「健康寿命延伸を目指して〜脳を若々しく保とう!〜」、理学療学科池添冬芽学科長の「健康寿命延伸を目指して〜カラダを若々しく保とう!〜」の2つの講演が行われました。作業療法と理学療法のそれぞれの観点から、脳の鍛え方のコツ、筋肉の機能低下の予防方法など、具体例をあげながら「健康」を保つ方法を解説しました。



総合医療センター糖尿病デーフェスタ 2023開催



令和5年11月18日(土)14時から総合医療センター本館1階において、「世界糖尿病デーフェスタ2023 防ごう! 知ろう!糖尿病!『糖尿病の食事のはなし』～あなたの食事、見直してみませんか～」が開催され、患者さんやその家族など25名が来場しました。栄養管理部山口悠夏管理栄養士、川原裕子管理栄養士による「糖尿病の食事のはなし～あなたの食事、見直してみませんか～」と題した講演、健康科学センター久保田眞由美健康運動指導士による運動実演が行われました。そのほかにも血糖測定、展示コーナー、医師相談、インスリン体験などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。

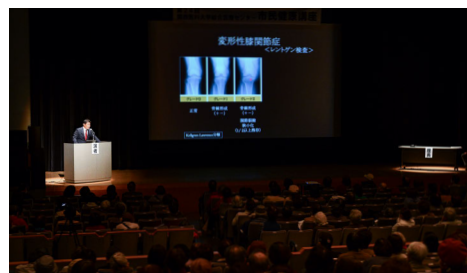


総合医療センター第23・24回市民健康講座開催



1月13日(土)14時から、鶴見区民センター小ホール(大阪市鶴見区)において第23回市民健康講座が開催されました。杉浦哲朗病院長の挨拶後、菅俊光副病院長が座長を務め、ロボット支援手術センター徳原克治センター長の「もっと知りたい!ロボット手術～特に大腸手術について～」、消化器肝臓内科島谷昌明部長の「消化器病における内視鏡検査と治療～特に怖い胆道がん・膵臓がんを中心に～」、不整脈治療センター高木雅彦センター長の「よく見かける不整脈とその治療法～その不整脈、放っておいて大丈夫?～」の3題が講演され、約100名が来場しました。

また、2月17日(土)14時から、守口文化センターエナジーホール(守口市)において第24回市民健康講座が開催されました。菅副病院長が座長を務め、耳鼻咽喉科・頭頸部外科朝子幹也部長の「今日からできる!花粉症対策～花粉症重症化ゼロをめざして～」、整形外科松矢浩暉部長の「足のつけ根や膝の痛みでお困りの方へ～股/膝痛の原因と対処・治療法について～」、泌尿器外科三島崇生部長の「泌尿器科疾患に対するロボット支援手術～前立腺がん・腎がん治療を中心に～」の3題が講演され、約300名が来場しました。



香里病院市民公開講座開催



令和5年10月21日(土)14時から、アルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)メインホールにおいて、「超高齢社会への準備～予防と医療～」をテーマに市民公開講座が開催され、約200名が来場しました。

岡崎和一病院長の挨拶後、総合診療科部長石丸裕康理事長特命教授の「健康で長生きするための高齢者医療」、内科部長延山誠一病院教授の「たばこ肺気腫と肺がんのはなし」、整形外科部長上田祐輔病院准教授の「運動器のケアで目指そう、健康寿命の延伸」、眼科部長埴本慎病院教授の「眼科にかからないといけない理由～白内障と緑内障の話～」の4題が講演されました。各演題後の質疑応答時には、参加者から多くの質問が寄せられました。



10 がん医療・検診



附属病院・総合医療センター 北河内がん診療ネットワーク協議会 合同イベント開催



12月5日(火)13時30分から枚方市総合文化芸術センター関西医大 小ホールにおいて、北河内がん診療ネットワーク協議会合同イベント「がんについてもっと知ろう!」が開催されました。このイベントはがん診療連携拠点病院の持つ医学知識を広く一般市民の方に還元することを目的に実施されました。

4年振りの実施となった今回は、附属病院がんセンター倉田宝保センター長(医学部呼吸器腫瘍内科学講座教授)による講演「がんに対する新しいこころみ」に加え、歌手の木山裕策さんによる特別講演とミニコンサートを実施し、約130名が来場しました。来場者アンケートでは「がん治療の新しい情報を知れて良かった」「木山さんのお話と歌を聴いて希望を感じた」など、コメントが多く寄せられました。



附属病院最新がん医療セミナー開催



10月27日(金)15時30分からOMMビル京阪ホールディングス株式会社集会場(大阪市中央区)において、「最新がん医療セミナー」が開催されました。附属病院は厚生労働省から教育機関や企業に外部講師として医療従事者を派遣し、がんに関する正しい知識の普及・啓発に務める「地域がん診療連携拠点病院」に指定されています。これまで学校を対象とした出張講演は多くありましたが、企業への出張講演の第一弾として、「健康沿線®」で関わりの深い京阪ホールディングス株式会社での実施に至りました。



日曜乳がん検診(ピンクリボン)開催



10月15日(日)9時から12時まで香里病院乳腺センターにおいて、日曜乳がん検診を実施しました。これは、認定NPO法人J.POSHが、子育て・介護・仕事・家事などで多忙な平日を過ごす女性が日曜日に乳がん検診を受けられるようにとの意図で取り組む「J.M.S®:ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり)」に賛同し、香里病院で平成23年から実施しているものです。当日は寝屋川市民他20名が受検しました。



11 医療の質・安全向上



第20回医療安全大会開催

令和5年12月18日(月)17時30分から、附属病院13階講堂、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室、くずは病院2階研修室の4病院4会場をWeb会議システムで結び、「第20回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院54名、総合医療センター52名、香里病院26名、くずは病院48名の合計180名が参加しました。



医療ニーズ発表会開催

令和5年10月30日(月)17時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、オンライン配信形式併用で、今年で6回目となる「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、その新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、産学連携による医療ニーズの社会実装化の取り組みです。齋藤貴徳産学連携・知的財産担当副学長(整形外科学講座教授)の挨拶に続き、産学知財統括室佐々木健一URA・産学連携コーディネータが本発表会の趣旨や本学の概要を説明。その後、過去の医療ニーズ発表会がきっかけで上市にいった3件の担当者の表彰が行われました。



その後は応募されたニーズの中から、選抜された29件について発表が行われました。



第7回学術祭開催

12月2日(土)、3日(日)、枚方キャンパス医学部棟1階オープンラウンジ、加多乃講堂において、「第7回学術祭」が開催されました。これは、本学における学術研究の更なる発展を目的としたもので、今年で7回目の開催となりました。

初日は木梨達雄学長による開会の辞で幕を開け、両日とも多くの参加者が訪れました。



12 女性医師支援・ジェンダー平等



医師キャリア支援のための交流会開催

11月15日(水)17時から、枚方キャンパス医学部棟3階食堂前において、第1回医師キャリア支援のための交流会が開催されました。オール女性医師キャリアセンター主催の、医師のキャリアパスやワークライフバランスについて考えることを目的としたイベントで、女子のみならず男子も含む学生、医師や大学関係者29名が参加しました。



第3回女性医師奨励賞(アプリコット賞)・ 第1回女性医師活躍推進賞 (アプリコットサポート賞)表彰



3月8日(金)17時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第3回女性医師奨励賞(アプリコット賞)及び第1回女性医師活躍推進賞(アプリコットサポート賞)表彰式が、オール女性医師キャリアセンター植村芳子センター長と推薦者ほか列席のもと、行われました。女性医師奨励賞は、本学に勤務する女性医師を対象に、教育・研究・診療の分野において、優れた成果を納めた人物を表彰するもので、女性医師のモチベーションの維持と向上を図り、更なる活躍を支援することを目的としています。また女性医師活躍推進賞は、本学における女性医師の活躍推進に取り組む講座等の団体による活動内容を顕彰することにより、女性医師が安心して働くことができ、医師としてのキャリアを継続できる職場環

境整備の普及啓発を図り、継続的な活動を支援するために、令和5年度に新たに創設されました。



13 学術貢献



石崎優子診療教授が 日本学術会議第26期連携会員に任命



医学部小児科学講座石崎優子診療教授が日本学術会議第26期連携会員に任命されました。日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」

として設立されました。日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われています。（日本学術会議Webサイトより）

14 環境配慮



地下水給水設備設置



10月19日（木）14時から香里病院敷地内において地下水給水式が執り行われました。式典では岡崎和一病院長、高橋延行副病院長によるシステム稼働のほか、システムの簡易説明や生成された水の試飲が行われました。このシステムは総合医療センターでも導入されており、井戸によって地下80メートルから地下水を汲み上げ、

不純物を取り除くなどの処理を行うことで飲料可能な軟水を生成します。式典をもって稼働したシステムにより受水槽には生成された水が送られ、院内で使用されます。この井戸は耐震構造を備えており、災害にも強いシステムは非常事態時における水の安定供給を担います。

